

川の流れるように

帯広市医師会
黒澤病院

前田 修一

ご存知、このタイトルは美空ひばりの最後の歌である。作詞は秋元康。この「川」はニューヨーク(NY)のEast Riverで、秋元康は一時NYに住んでおり、歌のタイトルは「ずっと East River を見ていたから自然と浮かんだ」と本人が回想しているとのことである。私も30歳代の前半にNYで働いており、オフィスはEast Riverのすぐ傍にあったので、毎日午後5時頃になるとEast Riverが最も良く見える部屋で、ボンヤリと川を眺めるのが常だった。一人のこともあったが、スタッフが何となく集まって来て、どうでも良い無駄話をすることも多かった。この頃のことを最近よく思い出す。その最初のきっかけは、ボスのRobert C Mellors(RCM)の妻のJaneが私に言った言葉を最近思い出したからだ。「スイッチ(私の名前の修一は、アメリカ人には発音できない)、私が最も誇らしく思うのは、一族に〇〇を職業としている人が一人もないことよ」。〇〇に入る職業は書くわけにはいかないが、当時の私にはアメリカ人、特にWAPS(白人でアングロサクソンでプロテスタント)の根本的な考え方に初めて触れ、大変驚いた。〇〇を、われわれ日本人は非常に良い職業と考えている。Janeのことを思い出して、RCMから毎年来ていたクリスマスカードが10年ほど来ておらず、多分亡くなったのだろうとは思ってはいたが、ネットで調べてみると、やはり2007年8月に亡くなっていた。同時に彼の代表的論文が2編ネットに出ていた。驚いたことにその一編目が、RCMの指導で私が書いた論文だった。たくさんの論文を書いた学者だったので、これは彼が選んだ論文だと思う。日本に帰ってから、自力でこの論文の続きを英文誌に投稿したところ、レフリーから論文はacceptする。ただし、共著者にはなっていないRCMに英語を直してもらうことが条件であると通知された。RCMに英文の手直しをお願いを電話した時の、彼の嬉しそうな笑い声は今でも耳に残っている。

同じ教室には、KorngoldというDr. がいた。免疫グロブリンのL鎖にκとλがあることを初めて発見した人で、名前から判るように、また外見も典型的なユダヤ人で、彼からは学問は教えてはもらわなかったが、パイプタバコの吸い方を教わった。爾来30年にわたりパイプタバコを楽しんだ。知っている人も多いと思うが、パイプは味が出てくるのは使い始めてから早くで半年後で、新しいパイプを購入す

る時に、半年後に良い味が出るかどうかを判断することが大きな楽しみとなった。10万円のパイプで失敗し、500円の安物で成功したこともある。彼は退職の時、彼の愛用のHandbook of Experimental Immunology, by D. M. Weir, 1967を小生にくれ、あのκとλの発見の元か? と愛用した。

教室の試験管洗いのオバさんに、黒人のローズがいた。日本から送られてくる食べ物アメリカ人も食べられるのかを試験する格好の人物で、多くの食品は平気だったが、羊羹は流石に無理だった。機械のmachineの発音が当時判らずローズにどう発音するか聞いたことがある。「スイッチ、マシーンは正しい発音ではなく、マッソンと発音するのよ」と教えてくれ、早速マッソンと言ってみたが全く通じなかった。この時、初めて彼女がフランス訛りの南部出身であることが判った。日本に帰ってから、彼女からも電話があった。「元気? 今度、娘が日本に遊びに行くので、娘が電話するわね」。のちに会うことがないローズの娘から本当に電話が来た。特に何も用のない電話だったが嬉しかった。

振り返って、皆とお喋りをしていたことを思い直すと、外国人についてが圧倒的に多かった。イタリア人、イギリス人、ドイツ人、プエルトリコ人。肝心なのは、本人が入って来るとピタリと、何食わぬ顔でその会話が終了すること。面と向かっては、絶対言わない。これは非常に大事な生活の知恵と思っ

た。「川の流れるように」の歌詞に「ああ川の流れるように とめどなく 空が黄昏に 染まるだけ」とある。この黄昏を毎日眺めていた人間がここにもいることに、共感と感慨を抱いている。



1980年NY, East River

右から3つ目の窓が横線になって並ぶ小さく見える建物にいました